

氏 名	佐々木 純子
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	看護学
学位授与番号	博甲第98号
学位授与の日付	平成27年3月24日
学位論文の題目	訪問看護ステーション管理者の職務継続に関する研究
学位審査委員会	主査 二宮一枝 副査 難波峰子 副査 山口三重子 副査 増田雅暢 副査 木本眞須美

## 学位論文内容の要旨

本学位論文は、高齢社会の在宅ケアニーズに対応すべく、その中心的役割を担うことが求められている訪問看護ステーション（訪看 ST）の強化・発展に資することをねらいとして、その鍵となる訪看 ST 管理者を対象に、管理者の活力ある職務継続への影響要因を明らかにすることを目的とした。

本学位論文では前記の目的を達成するために、1）訪看 ST で管理者が体験した管理実践での困難感の様相を明らかにすること、2）訪看 ST 管理者の職務継続への影響要因を、管理困難感と職務環境（職務エンパワメント）、仕事への活力（ワーク・エンゲイジメント）の関連から検証することを課題とした。

まず、訪看 ST の管理場面で管理者がどのような問題を抱えているのか、その管理困難感の様相を明らかにすることを目的として、訪看 ST 管理者への聞き取り調査を実施した。研究協力者は母体組織に雇用されている14名の管理者とし、管理業務の内容と体験している困難について半構造的インタビューにて聴取し、質的帰納的に分析した。その結果、母体組織を有する管理者の困難として224のコードが抽出され、【仕組みの中での葛藤】【担う役割への焦燥】【共通理解者不在の孤独】という3つの中核概念を持つ困難の様相が明らかになった。これらの訪看 ST 管理者の困難感、所属する母体組織が持つ構造的な要因の関与が示唆された。

次に、質的研究を基に訪看 ST の管理者の職務環境に着目し、看護職の置かれている職務環境の構造的要因（職務エンパワメント）が行動を規定するという Laschinger 理論を援用して、エンパワーされる職務環境は管理困難感に影響し、仕事への活力、職務継続にも影響するという因果関係モデルを措定し、モデルの検証を目的として無記名自記式の質問紙調査を実施した。対象は全国の訪看 ST 6,008ヶ所（WAN ネット掲載2012年1月時点）のうち、各県ごとに1/2無作為抽出し、廃止・休止を除いた2,882ヶ所の訪看 ST 管理者とした。調査内容は、基本属性（性別、年齢、最終学歴、登録資格、看護経験年数、訪看 ST 経験年数、訪看 ST 管理経験年数等）、管理者研修受講の有

無，訪看 ST の開設経緯，管理者就任の経緯，職務環境の構造的要因（職務エンパワメント），仕事への活力（ワーク・エンゲイジメント），管理困難感，現在の訪看 ST での管理者としての職務継続意向とした．回収 834 件（回収率 28.9%）有効回答数 749 件のうち，母体組織が立ち上げた訪看 ST の管理者 652 名を分析対象とした．モデル検討に先立ち，訪看 ST 管理者の職務継続を予測する指標として，質的研究結果をもとに訪看 ST 管理者の管理困難感尺度を開発し検討した．この困難感尺度は一定の信頼性・妥当性を有することが示された．因果関係モデルは構造方程式モデリングを用いてモデルのデータへの適合性を検討した．結果，モデルのデータに対する適合度は統計学的に支持され，訪看 ST 管理者の職務継続には，職務環境（職務エンパワメント）からの影響を受けた管理困難感と仕事の活力が関連することが示された．管理者の職務継続には，管理困難感への強い影響要因である職務環境の改善が必要であり，職務エンパワメントとしての「向上する機会」「情報」「支援」「資源」「フォーマル権限」「インフォーマル権限」の見直しが重要であることが示唆された．

以上の結果から，訪看 ST を持つ母体組織は，管理者に対して組織の方針や役割期待を明確に示すこと，管理者の力が発揮できるよう十分な権限の委譲と，経営管理も含めた職場運営への具体的な支援が求められる．訪看 ST 管理者が職務を継続し，訪問看護の現場で豊かに経験を蓄積していくことは，提供される看護ケアの質の向上につながり，在宅看護の充実・発展に寄与するものと考ええる．

## 主業績

No.1	
論文題目	訪問看護ステーション管理者の認識する管理実践上の困難
著者名	佐々木純子，難波峰子，二宮一枝
発表誌名	日本地域看護学会誌 17（2）：10-17，2014

## 副業績

No.1	
論文題目	訪問看護ステーション管理者の管理困難感尺度の検討
著者名	佐々木純子，難波峰子，二宮一枝
発表誌名	香川県立保健医療大学雑誌 6：7-14，2015
No.2	
論文題目	訪問看護ステーション管理者のワーク・エンゲイジメントと その関連要因
著者名	佐々木純子，難波峰子，二宮一枝
発表誌名	岡山県立大学保健福祉学部紀要 21（1）：35-43，2014

## 論文審査結果の要旨

本論文は、訪問看護ステーション管理者の活力ある職務継続への具体的な介入支援策の示唆を得ることをねらいとして、訪問看護ステーションでの管理実践上の困難感の様相を明らかにし、職務継続への影響要因を職務環境との関連から検証した研究である。

母体組織に雇用されている訪問看護ステーション管理者 14 名を対象にしたインタビュー調査から、管理実践上の困難感について質的帰納的に分析した結果、母体組織の中間管理者としての【仕組みの中での葛藤】と【担う役割への焦燥】とから、【共通理解者不在の孤独】があることが明らかになった。この知見を基に全国 2,882 ヶ所を対象に実施した無記名自記式質問紙調査から、3 下位尺度「裁量権」「孤独感」「職場運営」をもつ 12 項目の「訪問看護ステーション管理者の管理困難感尺度」を開発し、訪問看護ステーション管理者の職務継続意向を予測する指標として一定の妥当性・信頼性を確認した。

次に、Laschinger の職務エンパワメント理論を援用し、職務環境としての職務エンパワメントは訪問看護ステーション管理者の管理困難感と、ワーク・エンゲイジメントのそれぞれに影響を与え、それらを介して職務継続意向に関連するという因果関係モデル（訪看ステーション管理者の活力ある職務継続モデル）を措定して検証した結果、データへの適合度は統計学的に支持された。訪問看護ステーション管理者の職務継続において、管理困難感の軽減とワーク・エンゲイジメントを高める職務環境（職務エンパワメント）が影響することが確認され、組織のもつ構造的要因としての「フォーマルな権限」「情報」「支援」などの訪問看護ステーション管理者がエンパワーされる職務環境の重要性が明らかになった。

以上の結果から、訪問看護ステーション管理者の職務継続には、現場の管理実践での困難感の軽減が重要であり、管理困難感に影響する組織の構造的な要因の見直しが必要と考えられた。

本論文で得られた成果は、訪問看護ステーション管理者の職務継続に資する有意義な知見であり、在宅看護の充実に貢献するところが少なくない。よって、本論文は博士（看護学）の学位論文として価値あるものと認める。